

**製品名: ロテキンウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab17137**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	RTKN
別名	RTKN; RTKN1; Rhotekin
遺伝子 ID	6242.0
SwissProt ID	Q9BST9
免疫原	ロテキン由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 80-160

**背景**

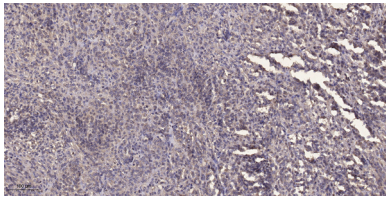
この遺伝子は、GTP 結合型 Rho タンパク質と相互作用する足場タンパク質をコードしています。このタンパク質が結合すると、Rho タンパク質の GTPase 活性が阻害されます。このタンパク質は、RhoGAP による活性型 GTP 結合型 Rho から不活性型 GDP 結合型

Rho への変換を阻害する可能性があります。Rho タンパク質は、細胞質分裂、転写、平滑筋収縮、細胞増殖、形質転換など、多くの重要な細胞プロセスを制御しています。Rho シグナル伝達経路の調節不全は、多くの種類の癌に関与していることが示唆されています。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2008 年 7 月];注意: ここに示す配列は、Ensembl 自動解析パイプラインから得られたものであり、予備データとして考慮する必要があります。機能: Rho シグナル伝達を媒介して NF- $\kappa$ B を活性化し、胃腫瘍形成における細胞のアポトーシスに対する抵抗性を高める可能性があります。セプチン構造の組織化において新たな役割を果たす可能性がある。類似性: PH ドメインを 1 つ含む。類似性: REM (Hr1) リピートを 1 つ含む。サブユニット: C 末端領域を介して TAX1BP3 PDZ ドメインと相互作用する。この相互作用は、Rho を介した c-Fos 血清応答配列 (SRE) の活性化を促進する。SEPT9 と相互作用する。GTP 結合型 RHOA、RHOB、RHOC に特異的に結合し、それらの GTPase 活性を阻害する。組織特異性: 前立腺で高発現、腎臓、心臓、脳、脾臓、精巣、胎盤、小腸、膵臓、骨格筋、末梢血白血球で中等度発現、卵巣、結腸、胸腺で弱発現。試験したすべての正常細胞株で弱発現。様々な癌細胞株で過剰発現。

## 研究分野

シグナル伝達; シグナル伝達経路; G タンパク質シグナル伝達; 低分子 G タンパク質; Ras ファミリー

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°C で一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45 分)。